

会で検討した規格と比較しながら検討を行なった。意見は第 21 回のときの意見とほぼ同じであつたが、各規格間に若干の差異がみられるので、それらを統一するよう意見を提出することとなつた。なお、これらの素案についての会議が 12 月初めにロンドンで開催されることになつているが、日本からは出席せず、意見のみ提出することとした。

.....
第 3 回 JIS スーパーフィニッシュロックウェル硬さ試験方法原案作成分科会 開催日: 9 月 19 日。出席者: 吉沢主査, 他 20 名。

前回の会議の検討事項をもととして作成した素案について前もって各委員より意見を提出していただき、それに基づいて逐次検討を行なった。試験方法および試験機の大部分について検討を終わり、試験機の残りと基準片については次回に検討することとした。

昭和43年度第 1 回 JIS PC 鋼棒・鋼線原案分科会
 開催日: 7 月 23 日。出席者: 猪股主査, 他 42 名。

1. JIS-PC 鋼棒, 鋼線原案作成依頼の説明

工業技術院水野, 高木両技官より依頼の主旨説明があり, ついで鉄鋼協会より, 分科会設置までの経過報告が行なわれた。

2. アンケート集約結果の報告

分科会開催に先立ち, 先に JIS 原案作成についての問題点, 分科会の運営などに関するアンケートを求めているが, その結果をまとめた資料にもとづき, 山腰幹事より説明があつた。

3. JIS 制定, 見なおしについての討議

アンケート結果をもとに討議された。討議の結果, PC 鋼棒と PC 鋼線・鋼より線とは用途をはじめ, 種々条件が異なるため, 2 つの小委員会に分かれて検討することとなりそれぞれの検討項目, 委員構成が決定された。

昭和43年度第 1 回 JIS 熱間圧延鋼板と鋼帯の形状寸法および重量ならびにその許容差原案分科会

開催日: 8 月 15 日。出席者: 吉田主査, 他 26 名。

本 JIS 改正の経緯説明の後, 各委員の自己紹介があり各界より, 本 JIS に関する問題点, 要望を述べてもらいそれを元にして鉄鋼メーカー側で原案を作成することになつた。次回は 10 月 8 日。

鉄鋼標準試料委員会

第25回委員会 開催日: 8 月 28 日。出席者: 池上委員長, 他 20 名。

1. 昭和43年度第 2/4 期分譲状況報告

2. 製造状況報告

製造中の標準試料につき, 富士より銑鉄, 八幡より炭素鋼・窒素専用鋼, 川鉄より微量元素シリーズの報告があつた。

3. 住金が製造した酸素分析専用鋼の分析成績表を審議した。市販の際は使用説明書を添布することになり, なお今回製造した試料は 18 組しかないのので, 必要とする委員に優先的に配布し余りがあれば一般に頒布することにした。

4. NBS 標準試料の技術連報受信者を協会が引き受けることになつた。

5. 鉄鉱石標準試料の経年変化について鋼管技研より説明があつた。

鉄鋼基礎共同研究会非金属介在物部会

第 8 回部会 開催日: 8 月 9 日。出席者: 荒木部会長 他 47 名。

以下の研究発表が行なわれた。

1. 委試研究発表

(1) EPMA による鋼中非金属介在物の研究

京大工 盛利貞, 吉野俊郎

(2) リムド鋼中の非金属介在物の研究

北大理 丹羽貴知蔵, 新谷光二

(3) リムド鋼の加工性に及ぼす非金属介在物の影響

阪大工 美馬源次郎, ほか

(4) カルシウム脱酸鋼の介在物の同定

東大工 荒木透, 佐川竜平, ほか

(5) 溶鉄のジルコニウムによる脱酸と脱窒反応生成物について 東工大 有田稔, ほか

(6) リムド鋼中の非金属介在物の加熱中における変化 名大工 佐野幸吉

2. 特別講演

(1) マイクロアナライザーによる鋼中非金属介在物の研究 住友金属 藤野允克

(2) アルミ-シリコンキルド鋼塊の凝固組織と酸化物系介在物について 富士製鉄 浅野鋼一

第25回 塑性加工シンポジウム

— 精 密 せん 断 —

主 催 日本塑性加工学会 協 賛 日本機械学会, 日本鉄鋼協会, ほか 5 学会

日 時 昭和 43 年 11 月 18 日 (月) 9:00~17:00

場 所 名古屋市公会堂 (4 階ホール) 名古屋市昭和区鶴舞町 61-1

1. 総 論

2. せん断加工の力学的考察

東 大 前 田 禎 三君

東工大 神 馬 敬君ほか 5 件

テキスト代金 会 員 (協賛の学協会員を含む) 1,000 円 非会員 2,000 円

申込締切 昭和 43 年 11 月 9 日 (土)

申込方法 はがき大の用紙に氏名, 通信先, 出欠の有無, テキスト冊数, 所属学協会名を明記し代金を添えなるべく現金書留でお申し込みください。

申 込 先 (106) 東京都港区六本木 7-22-1 東京大学生産技術研究所内 日本塑性加工学会